

和歌山県白浜町の3箇所に発育したゲンバイヒルガオ
(ヒルガオ科)は初回の越冬できず

久保田 信*・檜山 嘉郎*・田名瀬英朋**

Shin KUBOTA, Yoshiro KASHIYAMA and Hidetomo TANASE: *Ipomoea pes-caprae* (Convolvulaceae)
grew in Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan can not hibernate in the first winter

和歌山県西牟婁郡白浜町の3ヵ所、中大浜、京都大学瀬戸臨海実験所の通称“北浜”、対の浦で、2008年9—12月に発見された1個体ずつのゲンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* について、著者らはそれぞれの生育状況をこの地域から初めて詳細に記録した(檜山ほか, 2009)。今回、それぞれの個体が初めて迎える冬季を生き残れるかというこの地域における継続調査の結果を報告する。

日当たり良好で風波の影響の少ない対の浦の個体以外は、12月に落葉し始めた。たとえば、北浜では2008年12月6日に8枚が落葉し(表1)、その後も断続的に少数ずつ落葉した。落葉数を当初は数えていたが、強風で飛ばされるなどの理由から正確な落葉数の把握が困難なの

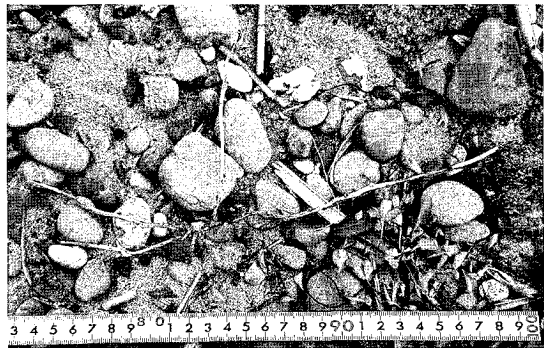


図1 和歌山県白浜町、京都大学瀬戸臨海実験所北浜で枯死乾燥したゲンバイヒルガオ(2009年5月23日撮影)

Fig.1. Dry and dead *Ipomoea pes-caprae* (Convolvulaceae) at a Kita-hama coast of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, in Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan (photographed on May 23, 2009).

で、茎に残っている葉の数とその色の変化などに注目した。

2009年1月の厳冬期に入ると、葉の色が緑色から黄色

表1 白浜町の海岸3箇所でのゲンバイヒルガオの生育の経時変化

Table. 1. Temporal change of growth of *Ipomoea pes-caprae* (Convolvulaceae) found on three beaches in Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan.

年月日	緑・黄色の葉数	枯葉数
北浜		
2008年11月12日	86	0
2008年12月1日	86	0
2008年12月6日	78	0
2008年12月24日	38	0
2009年1月26日	2	27
2009年2月1日	0	28
2009年2月8日	0	24
2009年5月23日～	0	0
2009年9月8日～	地上部は既に枯死し新芽なし	
対の浦		
2008年12月19日	35	0
2009年1月1日	35	0
2009年1月6日	33	4
2009年1月15日	20	11
2009年2月24日	枯死	
中大浜		
2008年11月10日	84	0
2009年1月1日	12	0
2009年1月15日	0	0
2009年2月14日	消失	

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan.
e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp
** 〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田1143
*** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676

に加速度的に変色し、すべて落葉しなくても枯葉となり、やがて個体全体が枯死することがわかった(表1)。どの個体も最終的にはすべての葉が落葉し、少なくとも地上にある部分全体が乾燥した後、新しい葉や茎を形成も伸張もすることはなく(図1)、すっかり消失してしまうことを確認した。

本種の主な分布域は、熱帯・亜熱帯域であることから、本州各地の海岸に漂着した種子から発芽した1年未満の個体が1回目に迎えた冬季の低気温などによって枯死する現象は容易に推察でき、これまでの報告(中西, 1987, 2008)とも一致した。また、和歌山県下の各地の海浜から1929年より報告されているように、発芽個体が越冬したと推定できる報告はない(宇井, 1929; 太田, 1931; 黒田, 1959; 後藤, 1962; 乾風, 1970; 樫山ほか, 2009)。しかしながら、最近発見された日高郡みなべ町の“千里の浜”に生育しているものには、越冬できたと推察されるものが含まれており(田名瀬・久保田, 2009)、継続調査中である。

この観察記録は本地域における初めての調査であるが、筆者らは上記の白浜町内における発芽個体の観察が終了した後も、新たな漂着種子の調査を継続した結果、2010年1月末の時点までで新たな発芽個体はまったく確認されていない。

引用文献

- 乾風 登. 1970: グンバイヒルガオの記録—南部川の河口にて—. 田辺文化財, (13), 18-19.
- 後藤 伸. 1962: グンバイヒルガオが加太に. 紀州生物, 2, 53.
- 樫山嘉郎・久保田 信・田名瀬英朋. 2009: 和歌山県白浜町で最近発見された若いグンバイヒルガオ(ヒルガオ科). Kuroshio Biosphere, 5, 23-25, pl. 1.
- 黒田隆司. 1959: 美浜町のグンバイヒルガオ. 日高郡沿岸地帯の植物相(中間報告), 9. 日高高校生物部, 日高, 和歌山県.(筆者ら未見)
- 中西弘樹. 1987: 日本本土におけるグンバイヒルガオとハマナタマメの分布と海流散布. 植物地理・分類研究, 35, 21-26.
- . 2008: 海から来た植物. 319pp. 八坂書房, 東京.
- 太田馬太郎. 1931: 紀州ニ生エタぐんばいひるがほ. 植物研究雑誌, 7, 388-389.
- 田名瀬英朋・久保田 信. 2009: 和歌山県みなべ町で最近発見された大形のグンバイヒルガオ(ヒルガオ科). 南紀生物, 51(1), 22-23.
- 宇井縫藏. 1929: 紀州植物誌. 338pp. 近代文藝社, 大阪.